

活用効果評価結果

NEITS 情報	開発目標	省力化、経済性の向上																	
	新技術登録番号	HR-140011-VE	区分		機械		有用な技術の位置づけ		—										
	分類	道路維持修繕工 — 道路清掃工 — トンネル照明器具清掃工																	
	新技術名	移動式垂直昇降型トラックマウント高所作業車 (副題: 作業床上の操作装置で車両移動操作を可能とし、高所連続作業が可能な移動式トラックマウント高所作業車)																	
	比較する従来技術 (従来工法)	高所作業車「トラック架装・垂直昇降・プラットフォーム型」																	
	新技術の概要及び特徴	本技術は、作業床上の操作装置から車両の移動操作が可能なトラック架装の高所作業車で、従来は定置ジャッキ式のトラック架装の高所作業車で、作業ポイント毎にジャッキと作業床昇降の操作を行っていた。本技術の活用により、高所連続作業の施工性、経済性が向上する。																	
活用 効果 評価	所見	[経済性] ・本技術の経済性については、作業時間、施工日数が短縮できるため、従来技術に対して優れる。 [工程] ・本技術の工程については、作業時間、施工日数が短縮できるため、従来技術に対して優れる。 [品質・出来形] ・本技術の品質・出来形については、従来技術に対して同等である。 [安全性] ・本技術の安全性については、ジャッキの設置、格納が不要となるため、従来技術に対して優れる。 [施工性] ・本技術の施工性については、車両の移動が容易になるため、従来技術に対して優れる。 [環境] ・本技術の環境については、従来技術に対して同等である。																	
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	・評価結果は安定している。また、従来技術も妥当と判断できるため継続調査は実施しない。よって、次回以降の評価は不要とし、情報識別記号を「-VE」とする。							<div>項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較</div> <div>参考</div> <div>経済性 A B C D 環境 施工性 品質・出来形 安全性</div> <div>— 新技術 — 従来技術(従来工法)</div>										
	留意事項	・許容路面傾斜角度(前後5度、左右3度)の確認が必要である。																	
	当該技術における改良点及び要望	・移動操作における車輪の方向転回操作レバーの遊びをもう少し大きくしてもらいたい。 ・車両移動時の死角をなくしてもらいたい。 ・さらに大きなタイプも開発してもらいたい。																	
参考	対象工事	1	トンネル補修工事					従来技術: 高所作業車「トラック架装・垂直昇降・プラット施工者希望型(契約後提案)」											
		2	橋梁補修工事					従来技術: 高所作業車「トラック架装・垂直昇降・プラット施工者希望型(契約後提案)」											
		3	トンネル非常警報設備工事					従来技術: 高所作業車「トラック架装・垂直昇降・プラット施工者希望型(契約後提案)」											
		4	トンネル照明設備工事					従来技術: 高所作業車「トラック架装・垂直昇降・プラット施工者希望型(契約後提案)」											
		5	道路照明維持工事					従来技術: 高所作業車「トラック架装・垂直昇降・プラット施工者希望型(契約後提案)」											
		6	道路照明施設維持補修工事					従来技術: 高所作業車「トラック架装・垂直昇降・プラット施工者希望型(契約後提案)」											
活用 効果 調査 結果	参考	ケース番号 および年度	1	2	3	4	5	6									項目の 平均(点)	従来技術 (従来工法)(点)	
	施工 時 評価	項目	H26	H27	H28	H28	H29	H29											
		経済性	B	B	B	A	A	B										B	C
		工程	B	B	A	A	C	B										B	C
		品質・出来形	C	C	C	C	C	C										C	C
		安全性	B	C	C	B	A	C										B	C
		施工性	B	B	A	A	B	B										B	C
		環境	C	C	C	C	C	C										C	C
	その他	-	-	-	-	-	-										-	-	
	総合評価点	B	B	B	B	B	B										B	C	
今後、当該技術を 活用出来る工事に 活用したいか	今後もし非活用したい	活用を検討したい		場合によっては 活用することもある		技術の改良を強く望む		優位性における判定											
	60% [3件/ 5件]	20% [1件/ 5件]		20% [1件/ 5件]		0% [0件/ 5件]		A 極めて優れる											
								B 優れる											
								C 従来技術と同等											
								D 従来技術より劣る											
追跡調査の必要性		不要										備考							
追跡調査		なし																	